

結束型社会関係資本が成績に与える効果とその背景

—日中の大学生を対象として—

呉 雨婷

Abstract

Whether it is Japan or China, both are stratified societies. Inequality affects education. In education, James Samuel Coleman suggests that social capital can compensate for the negative impact of class inequality status on education. Based on the knowledge that the bonding social capital affects GPA, the factors affecting both were explored in terms of region, gender, number of brothers, intention to study, economic capital and parents' occupation and education. The results showed that among Japanese university students, the father's occupation and education were the influential factors affecting the bonding social capital and GPA of university students. In China, on the other hand, among the influencing factors affecting parents' bonding social capital and GPA, the father's occupation and education were important factors, but the intention to study was also important. Thus, in both Japan and China, it is obvious that the father's occupation and education have a strong influence on university students' GPA, even though the bonding social capital plays a role in it. However, in China, more emphasis is placed on the impact of study intention on university students' GPA.

キーワード……結束型社会関係資本 成績 影響要因

1 問題の提起

現代社会は、子供が幼少の頃から教育投資を行い、大学受験で良い大学を目指して激しく競争している。従来、成績に関しては、小学生、中高校生を対象として多くの研究が行われてきたが、大学生に対する教育達成の研究は多くない。教育達成は大学受験で終わることではなく、大学においても教育達成を追求するべきである。それでは大学生の教育達成にはどのような要因が影響しているのだろうか。

教育は社会移動の鍵である。貧困層は教育を通じて階層の上昇が実現できる可能性がある一方、富裕層は教育を通じて地位を守るか、さらに上昇することができる。日本は「終身雇用制」が崩壊し、非正規雇用が常態化している。その結果、貧困層が増大していく一方、富裕層は依然富を持っている。その経済的格差が教育の効果を左右する。

日中とも経済的格差には地域性がある。そしてそのことが教育の資源に影響する。都市部より農村部は、経済力が欠如し教育資源に乏しい。また、中国では親の職業からもたらされる「資源」、「資源へのアクセス」は子供の教育に影響する。例えば、親が「自営業」の場合は、他の人より多くお

金を子供に投入する。「公務員」である場合は、人脈を使って子供の教育（例えば進学）に努めることができる。

階層を除いた家庭要因について、中国では今回の調査対象とした大学生は、大部分南方で生まれ、「多子多福」という考えが根強く、キョウダイをもつ者が多い。また、「男尊女卑」という思想がある地域ではやや残存している。教育について、娘がどんなに素晴らしい成績でも進学をさせない一方、息子はいかなる苦勞をしても全力で学校に通わせることが珍しくない。同様に、日本では、一人っ子政策がなく、「家父長制」が依然残っている。中国と同じように、「娘より、息子の出世を願う」という思想が残っている。日中では、キョウダイがいる大学生の成績と一人っ子の成績とに違いがあるのだろうか。また、女子大学生は教育達成に不利益を被っているのだろうか。このような疑問からキョウダイ数と性別は成績に影響をもたらすのかを検討する。

教育達成を追求する時、属性要因や親の教育意識と教育期待は肝要であるが、一部の大学生は実家を離れ、親と別居し大学に通っている。この場合、大学生自身の学習意欲がより重要であろう。これまで多くの文献は、小学生を対象として、学習意欲が学力に影響することを実証した（林幸範ら 1984）が、大学生の場合でもこの関係が見られるのか検討したい。

日本も中国も格差社会である。各種の格差は教育に負の影響を与えると見られる。J.Coleman (1988) は、階層的不利な状況は社会関係資本（下記：SC と示す）により相殺できると論じた。Coleman は家庭内の SC と親子関係を強調した。格差社会で教育の公平性を追求する時 SC を利用して分析するのが良いだろう。

SC が教育にもたらす効果については、日本でも中国でも従来指摘されてきた（志水宏吉 2012、Coleman 1988、曹春春 2013）。これらの研究では、R.Putnam のいう結束型 SC にあたる資本が教育に与える影響について強調されてきた。呉雨婷（2022）は日本と中国の大学生を比較した研究で、日本人大学生の結束型 SC と中国の親の結束型 SC がそれぞれ GPA に有意な効果を持っていることを明らかにした。ただし、従来は単純な相関関係でのみ論じられてきたが、本研究は、上記であげた属性要因、学習意欲と経済資本及び文化資本との交互作用効果を加えてこの関係を検討する。

SC の代表的論者である Coleman と P.Bourdieu では SC の定義が異なっている。日本と中国の大学生を比較した場合、日本は密な親子関係と家庭内の感情的なものが成績に影響し、Coleman 式の SC に近いと考えられるだろう。コネ社会の中国では進学推薦に見られるように、親の SC と家族の SC は Bourdieu が指摘したものに近い作用があると考えられる（呉 2022）。最後に、Coleman 式の SC に近い日本と、Bourdieu 式の SC に近い中国の違いを分析して比較しながら解明したい。日本と中国の大学を対象にした web 調査により明らかにする。

2 先行研究と仮説の設定

2.1 地域、ジェンダー、キョウダイ数及び学習意欲について

志水ら（2012）は、5つの政令都市の100校の小学生を対象として、親の SC¹⁾はその子供の SC²⁾

に影響し、その子供の SC が学力と正の相関関係を持っていること、また、子供の SC の学力への影響力について、ジェンダー差があり、女子は男子より学力が高くなる傾向があることを実証した。ジェンダー差の他、Coleman (1988) は、キョウダイ数が SC に影響しており、キョウダイ数が多いほど大人は子供に対する注意力が薄くなることを示唆した。

また、杉原名穂子 (2014) は、母親の SC と地域性の関連を指摘した。地域がコミュニティとして所有する SC の類型と量が違うことから、地域によって階層要因と SC の関係、また母親の教育意欲との関係が異なることを明らかにした。日本社会と中国社会いずれの研究でも、収入格差以外にも地域格差が教育に影響することが実証的に示されている (石川由香里ら 2011、李春玲等 2017、志水 2005)。李 (2005) は中国の小中高校生と大学生を対象として、教育の市場化による地域間の教育格差が拡大し、富裕な地域や都市は教育資源が多い一方、貧困な地域や農村は教育資源が乏しいこと、さらに教育機会の分配が影響することを指摘した。

なおこのような格差社会では、以上のような属性要因に加え、大学生自身の学習意欲³⁾も成績に重要な影響を与えることが考えられ、中国ではその関係が実証されている (付信志ら 2022)。

以上のことから次のことが明らかにされてきた。都市部出身の中高生は農村部出身の生徒より学業成績が優秀である。女子生徒は男子生徒より学力が高い。キョウダイ数が少ない生徒は成績が良い。また、学習意欲が高い大学生は成績が良好である。このように地域要因、ジェンダー、キョウダイ数と学習意欲は GPA に影響を与える。他方、SC については結束型 SC が成績に正の効果をもたらしている。しかし、大学生についての研究が不足していることから、結束型 SC と成績の相関関係に、地域、ジェンダーとキョウダイ数、学習意欲がどのように影響しているかは不明である。したがって、この問題を明らかにすることを本研究の課題とする。結束型 SC と大学生の成績の相関関係について属性要因と学習意欲が交互作用効果を示すことを仮説 1 とする。

2.2 経済資本、文化資本について

中国では、経済発展がめざましく中間層が増大し、教育競争も激しくなっている。それにもない、経済資本と教育効果の関係にも注目が集まっている。経済力が教育に影響することは、教育の公平性に悪影響を及ぼすであろう。呉癒暁 (2020) は、小中高生と大学生を対象として、SC が中位層以上にある家庭は、より多くの時間とお金を教育に投入し階層の再生産がおきていることを示した。Xie, Ailei (2011) は、農村部出身の学生を対象として、富裕層の親は経済資本を豊富な人脈 (SC) に転換し教育に助力する一方、血縁にのみもっぱら頼る貧困層の子供はコネがない分、進学で不利な状況に置かれていることを指摘した。

文化資本について、Bourdieu (1979) は、文化資本は客体化された状態 (本、楽器など)、制度化された状態 (学歴、職業など)、身体化された状態 (ハビトゥスなど) と分類した。本稿では親の職業と親の学歴から文化資本を考察する。親の学歴について、Bourdieu (1970=1991) は、親の学歴が高いとその子供の教育に有利な影響をもたらすことを指摘した。教育達成との関係については、林

雄亮（2004）は1995年のSSM調査のデータを用いて調査対象者の教育達成と階層との因果関係を分析し、階層要因（特に父親の学歴）が強いことが指摘した。李ら（2017）は、特に父親の職業が子供の教育年数に影響し、一般的に、教育年数が高い管理職である父親をもっている子供の教育年数が長いと明らかにした。親の学歴と職業は学力にも強く影響している（志水 2005）。中国でも武彦平（2018）は、中学生を対象とした調査で、父親の収入、職業と学歴が有利な場合、その子供の成績も高くなるとし、それが再生産をうみだしていること、すなわち親の階層が子供の教育機会、さらに就職機会に影響すると明らかにした。

以上のことから親の経済資本と文化資本は、教育に影響していることがわかった。ではその二つの資本は、SCとはどのような関係があるのか。さらに教育にどのような影響を与えるのか。垂見裕子（2015）は香港と日本の小学生を対象として、親のSC（親と子供のコミュニケーションや親の教育的関与）を考察した結果、日本の場合では、家庭背景（親の階層）がSCに関与していて、さらに学力に影響することと明らかにした。

このように垂見の研究は親の経済資本、文化資本はSCに影響し、SCは学力に影響していることを明らかにしてきた。ただし、日本と中国の大学生については触れられていない。本稿では、この関連について分析し、親の経済資本と文化資本が、結束型SCとGPAの相関関係に交互作用効果を示すことを仮説2とする。

日本と中国で効果をもたらすSCのタイプが違う課題について（呉 2022）、趙延東・洪岩壁（2012）は、Colemanが定義したSCは関係の「結束型」を強調する一方、Bourdieuが指摘したSCは「ネットワーク」を強調することであり、どちらのタイプのSCも教育達成に影響すると論じた。呉（2022）は、日中大学生を対象としてSCと学力の関係を考察した結果、日本のSCはColeman式のSCに近く、中国のSCはBourdieuが指摘したものに近い作用があると明らかにした。そこで、仮説3は、仮説1と仮説2で示す交互作用効果が日中で異なり、中国の大学生では地域と親の階層的要因が効果を示す。

3 調査の概要と概念の操作的定義

3.1 調査の概要と調査対象者の属性

2020年11月から12月、新潟大学と中国の北京師範大学珠海分校の大学生各100人を対象としたweb調査を大学の教員に依頼して行った。新潟大学は国立大学で総合大学である。日本の大学ランキングで比較的上位にある。学部数は10⁴で、その学生数は9,992人⁵である。大学院数は5で、学生数は2,072人程度である。中国の北京師範大学は公立大学であるが学費の面では私立大学並みである。総合大学で広東省の大学ランキングは比較的上位にある。学部数は15、学生数は23,000人程度である。

表 1 調査対象者の記述説明⁶⁾

		分類	日本 (n=100)			中国 (n=100)		
			平均値	構成比	標準偏差	平均値	構成比	標準偏差
従属変数	GPA		2.620		0.874	3.040		0.920
独立変数	親の結束型SC		2.420		1.701	3.930		2.185
	大学生の結束型SC		3.690		2.014	3.180		1.731
個人 関連	地域	農村部		66.0			64.0	
		都市部		34.0			36.0	
	ジェンダー	男性		44.0			36.0	
		女性		56.0			64.0	
	キョウダイ数	一人っ子		9.0			24.0	
キョウダイがいる			91.0			76.0		
学習意欲	学習意欲		15.150		2.679	17.020		2.846
経済資本	経済力		6.660		2.235	3.660		1.249
文化 資本	父親-職業	公務員		20.0			21.0	
		会社員		58.0			18.0	
		自営業		8.0			36.0	
		その他		14.0			25.0	
	父親-学歴	中・高校		32.0			55.0	
		専修・高専・短大 四年制大学あるいは以上		10.0 58.0			21.0 24.0	

日本と中国のサンプル数は 100 人ずつ、合計 200 人である (表 1)。日本の GPA (3.3 参照) と親の結束型 SC (3.2 参照) の平均値は中国より低い。日本人の大学生の結束型 SC は中国人の大学生より高い。地域についてみると、日本と中国とも農村部と都市部の比は 6 : 4 である。ジェンダーについて、男女比は日本と中国とも 4 : 6 である。キョウダイ数について、日本の場合では 1~2 人のキョウダイがいる大学生は 9 割に近く、一人っ子である大学生は 9%、3 人又は 3 人以上のキョウダイがいる大学生は 2% である。中国では 1~2 人のキョウダイがいる大学生は 5 割で、一人っ子と 3 人又は 3 人以上のキョウダイがいる大学生は各 25% に占める。学習意欲 (3.3 参照) について、日中では差があまりない。経済力 (3.3 参照) については、日本と中国で指標が異なるため比較は難しい。父親の職業について、日本は会社員が多く、中国は自営業が多い。母親の職業について、日中とも会社員が多い。父親の学歴について、日本では四年制大学以上の父親を持っている大学生が多く、中国では父親が中・高校で卒業した大学生が多い。母親について、日本人大学生の母親は専修・高専・短大で卒業した人が多く、中国では母親が中・高校で卒業した大学生が多い。

3.2 SC の解釈と操作的定義について

SC を分析する時、本研究は個人財だけを考察する。Putnam (2000=2006) は、ネットワーク論を踏まえ、結束型 (ボンディング型) と橋渡し型 (ブリッジング型) という類型を提出した。本稿では大学生とその親の SC を考察するだけではなく、特に結束型 SC という類型に注目して考察する。

本稿では結束型 SC と成績の相関関係を元にして分析を行うので、まず結束型 SC の解釈と本稿での定義を説明する。Putnam (2000=2006) のいう結束型 SC は特定の互酬性と「排他性」があり、外集団に対して負の外部効果を起こしやすい。一般的に家族、近隣などとの関係を指す。Coleman は、親が子供の教育に対する熱心さに注目したが、これも結束型と考えられる。本研究では近隣を結束

型 SC の範囲に入れない。中国の近隣はただ家の近くの周りに住んでいる人を指す一方、日本は町内会、自治会などの地縁関係を持っている人を指す。また、都市化が進む一方、両国は近隣との関係は昔より弱くなっている。そこで、近隣を結束型 SC の含めないこととした。

本稿で用いる SC は大学生とその親の個人財である。調査では大学生を対象に親の SC をたずねた。質問項目は、「困った時の相談」、「授業料あるいは生活費が足りない時の相談」、「進路相談」と「進学推薦」について誰に相談したかという回答から指標化した。選択肢は、家族（夫婦間、元配偶者を含む）、親以外の家族（親戚を含む）、友人（親の友達、友達の親）、地縁（近所の人）、学校（学校とその先生）、職場（会社の同僚）、その他（それ以外の専門家、その他）である。その中から、家族（夫婦間、元配偶者を含む）、親以外の家族（親戚を含む）を選択した数の総和を親の結束型 SC と定義する。

大学生の場合は、「悩み相談」、「学業相談」、「進路相談」と「免許や資格など相談」から大学生の SC を考察した。回答項目は家族（親、親以外の家族（親戚を含む））、学校（先生）、恋人及び友人（中学校の友達、高校の友達、大学の友達、先輩／後輩、アルバイト先の友達、それ以外の友達）である。それぞれの質問で家族（親、親以外の家族（親戚を含む））を選んだ数を大学生の結束型 SC とした。

なお、本稿では結束型 SC と GPA の相関関係について交互作用を用いて分析する。交互作用を使う時、独立変数が量的変数である場合、センタリングを行う。表 1 により、日本人の大学生の結束型 SC の平均値は 3.69 で、中国人の親の結束型 SC は 3.93 である。日本人大学生の経済力平均値は 6.66 で、中国人大学生の経済力平均値は 3.66 である。そして、日本人の大学生の結束型 SC のセンタリング化の操作は日本人の大学生の結束型 SC -3.69 であり、中国人の親の結束型 SC のセンタリング操作は中国人の親の結束型 SC -3.93 である。日本人大学生の経済力に関するセンタリング操作は日本人大学生の経済力 -6.66 であり、中国人大学生の経済力に関するセンタリング操作は中国人大学生の経済力 -3.66 である。

3.3 GPA、階層変数と操作的定義

その他の変数について、従属変数の GPA について次のように定義した。日本では「これまでの大学成績」について、A（優秀）、B（良）、C（可）、D（不可、及び未取得）の割合をたずね、0 割=1、1~3 割=2、4~6 割=3、7~9 割=4、10 割=5 と尺度化する。中国では大学生の GPA を質問し、日本の成績と比較分析を考慮して 2.0 以下=1、2.0~3.0=2、3.0~3.5=3、3.5~4.0=4、4.0 以上=5 とした。

独立変数について、学習意欲は、「大学の授業」、「免許や資格取得」と「自主的な勉強」にどれくらい力を入れるかを聞いた。経済資本を尋ねる時、日本では 1 ヶ月の交際費（通信費を含む）、衣服費、コロナ前の国内旅行回数を質問項目として考察した。操作について、日本では 1 ヶ月の交際費（通信費を含む）と衣服費について、5000 円以下=1、5000 以上 1 万円未満=2、1 万円以上 2 万円

未満=3、2万円以上3万円未満=4、3万円以上5万円未満=5、5万円以上=6とした。コロナ前の国内旅行回数について、0回=1、1回=2、2回=3、3回かつ3回以上=4。そして、総和し得点化した。一方、中国では1ヶ月の生活費を尋ねた。操作について、「13,000円以下」と「13,000円～20,000円」=1、「20,000円～25,000円」、「25,000円～33,000円」と「33,000円～83,000円」=2、「83,000円～170,000円」と「170,000円以上」=3とした。

独立変数が質的変数である時、ダミー変数を設定した。地域では、都市部を1と設定したダミー変数をおいた。キョウダイ数を考察する時、一人っ子を1と設定したでダミー変数を置いた。父親および母親の職業について、公務員=1、会社員=1、その他=1のダミー変数をそれぞれ設定した。父親、母親の学歴について中・高校、専修・高専・短大のダミー変数を設定する。これらの変数を用いて重回帰分析を行った。最初のステップで主効果を次のステップで交互作用項を投入した。

4 仮説の検証

本研究で日中の大学生とその親の結束型SC(独立変数)がGPA(従属変数)に影響する要因を探求するため、先行研究を踏まえて、地域、ジェンダー差、キョウダイ数、学習意欲、経済資本及び文化資本(職業、学歴)を調整変数とし、その調整変数を入れた場合、独立変数と従属変数の関係はまだ成り立つるかどうかを考察する。

4.1 地域

表2 日中結束型SC×地域×GPA

		ステップ1				ステップ2					
		非標準化係数		標準化係数	t 値	有意確率	非標準化係数		t 値	有意確率	
		B	標準誤差				B	標準誤差			
日本	(定数)	2.610	0.098		26.563	***	2.611	0.098		26.734	***
	大学生の結束型SC	0.185	0.040	0.426	4.637	***	0.231	0.050	0.531	4.582	***
	都市部ダミー	0.028	0.169	0.015	0.168	ns	0.031	0.168	0.017	0.183	ns
	大学生の結束型SC×都市部ダミー						-0.120	0.082	-0.171	-1.475	ns
中国	(定数)	2.98	0.112		26.626	***	2.980	0.113		26.478	***
	親の結束型SC	0.106	0.041	0.252	2.576	**	0.108	0.053	0.255	2.019	*
	都市部ダミー	0.168	0.187	0.088	0.899	ns	0.168	0.188	0.088	0.895	ns
	親の結束型SC×都市部ダミー						-0.003	0.085	-0.005	-0.039	ns

***p<0.001, **p<0.01, *p<0.05, +p<0.1

表2によると、日本の場合では、回帰分析のステップ1(R²=.182)において、大学生の結束型SCのみ有意であった。都市部ダミーは有意ではなかった。ステップ2のR²の増加は有意で(R²=.200, Δ=.018, p<0.001)、投入された交互作用項は、大学生の結束型SC×都市部ダミーが有意ではなかった。中国の場合では、ステップ1(R²=.074)において、親の結束型SCのみ有意であった。都市部ダミーは有意ではなかった。ステップ2のR²の増加は有意で(R²=.074, Δ=.000, p<0.05)、投入された交互作用項は、親の結束型SC×都市部ダミーが有意ではなかった。これによって、大学生の結束型SCはGPAに効果を持っている一方、中国は親の結束型SCがGPAに影響を与えている。しかし、地域はGPAに有意な効果を持っていない。また、大学生の結束型SCとGPAの相関関

結束型社会関係資本が成績に与える効果とその背景（呉雨婷）

係に関する影響する要因と、親の結束型 SC と GPA の相関関係に関する影響要因について、地域は影響要因ではないことが明らかになった。

4.2 ジェンダー

表 3 日中結束型 SC×ジェンダー×GPA

		ステップ1				ステップ2					
		非標準化係数		標準化係数	t 値	有意	非標準化係数		標準化係数	t 値	有意
		B	標準誤差	ベータ		確率	B	標準誤差	ベータ		確率
日本	(定数)	2.565	0.107		24.035	***	2.569	0.107		23.947	***
	大学生の結束型SC	0.189	0.04	0.435	4.713	***	0.174	0.048	0.400	3.616	***
	男性ダミー	0.124	0.162	0.071	0.767	ns	0.130	0.163	0.074	0.802	ns
	大学生の結束型SC×男性ダミー						0.050	0.088	0.063	0.571	ns
中国	(定数)	3.187	0.11		29.042	***	3.180	0.109		29.107	***
	親の結束型SC	0.099	0.041	0.236	2.455	**	0.140	0.049	0.332	2.837	**
	男性ダミー	-0.408	0.183	-0.214	-2.223	*	-0.425	0.183	-0.223	-2.324	*
	親の結束型SC×男性ダミー						-0.122	0.086	-0.166	-1.422	ns

***p<0.001, **p<0.01, *p<0.05, +p<0.1

表 3 によると、日本の場合では、回帰分析のステップ 1 ($R^2=.187$) において、大学生の結束型 SC のみ有意であった。男性ダミーは有意ではなかった。ステップ 2 の R^2 の増加は有意で ($R^2=.189$, $\Delta=.002, p<0.001$)、投入された交互作用項は、大学生の結束型 SC×男性ダミーが有意ではなかった。中国の場合では、ステップ 1 ($R^2=.112$) において、親の結束型 SC、男性ダミーが有意であった。ステップ 2 の R^2 の増加は有意で ($R^2=.130, \Delta=.018, p<0.01$)、投入された交互作用項は、親の結束型 SC×男性ダミーが有意ではなかった。それゆえ、日本は大学生の結束型 SC が GPA に影響し、中国は親の結束型 SC は GPA に影響する。両者の相関関係の要因についてジェンダーから考えると、日本はジェンダーとは有意な効果をもっていなかった。中国の場合では、男性は女性より GPA が低いことが明らかになった。中国人の大学生でも男性より女性のほうが GPA が高い。親の結束型 SC は GPA の相関関係と GPA の影響要因について、ジェンダーは有意な効果が出ていなかった。つまり、中国人大学生にとって、ジェンダーは親の結束型 SC と GPA の相関関係に関する影響要因ではないことが明らかになった。

4.3 キョウダイ数

表 4 日中結束型 SC×キョウダイ数×GPA

		ステップ1				ステップ2					
		非標準化係数		標準化係数	t 値	有意確率	非標準化係数		標準化係数	t 値	有意確率
		B	標準誤差	ベータ			B	標準誤差	ベータ		
日本	(定数)	2.629	0.084		31.421	***	2.629	0.084		31.261	***
	大学生の結束型SC	0.184	0.040	0.424	4.604	***	0.185	0.041	0.427	4.498	***
	一人っ子ダミー	-0.098	0.280	-0.032	-0.352	ns	-0.110	0.293	-0.036	-0.375	ns
	大学生の結束型SC×一人っ子ダミー						-0.026	0.186	-0.014	-0.14	ns
中国	(定数)	3.159	0.100		31.571	***	3.159	0.100		31.459	***
	親の結束型SC	0.109	0.040	0.259	2.722	**	0.096	0.047	0.228	2.063	*
	一人っ子ダミー	-0.495	0.204	-0.231	-2.425	*	-0.496	0.205	-0.231	-2.421	*
	親の結束型SC×一人っ子ダミー						0.052	0.093	0.063	0.566	ns

***p<0.001, **p<0.01, *p<0.05, +p<0.1

表 4 によると、回帰分析のステップ 1 ($R^2=.183$) において、日本の大学生の結束型 SC のみ有意であったが、一人っ子ダミーは有意ではなかった。ステップ 2 の R^2 の増加は有意で ($R^2=.183, \Delta=.000, p<0.001$)、投入された交互作用項の大学生の結束型 SC×一人っ子ダミーは有意ではなかった。一人っ子である大学生とキョウダイ数がある大学生の間で GPA は差がない。すなわち、日本では、キョウダイがいるかないか GPA に影響しない。また、キョウダイ数は大学生の結束型 SC と GPA の相関関係に関する影響要因ではないことがわかった。

中国では、回帰分析のステップ 1 ($R^2=.120$) において、中国の親の結束型 SC と一人っ子ダミーが有意であった。ステップ 2 の R^2 の増加は有意で ($R^2=.123, \Delta=.003, p<0.01$)、投入された交互作用項は、親の結束型 SC×一人っ子ダミーで有意ではなかった。中国人の大学生はキョウダイ数と GPA が有意な効果をもっている。一人っ子である大学生はキョウダイ数がある大学生より GPA が低い、キョウダイ数は親の結束型 SC と GPA の相関関係に関する要因ではないことが明らかになった。

4.4 学習意欲

表 5 日中結束型 SC×学習意欲×GPA

		ステップ1				ステップ2					
		非標準化係数		標準化係数	t 値	有意確率	非標準化係数		標準化係数	t 値	有意確率
		B	標準誤差	ベータ			B	標準誤差	ベータ		
日本	(定数)	2.620	0.079		33.309	***	2.608	0.082		31.729	***
	大学生の結束型SC	0.165	0.041	0.380	4.023	***	0.166	0.041	0.382	4.025	***
	学習意欲	0.053	0.031	0.162	1.715	+	0.055	0.031	0.168	1.761	+
	大学生の結束型SC×学習意欲						0.008	0.015	0.047	0.508	ns
中国	(定数)	3.040	0.090		33.881	***	2.991	0.092		32.648	***
	親の結束型SC	0.113	0.042	0.269	2.668	**	0.111	0.042	0.263	2.648	**
	学習意欲	-0.016	0.033	-0.048	-0.479	ns	0.002	0.033	0.006	0.054	ns
	親の結束型SC×学習意欲						0.033	0.017	0.200	2.002	*

***p<0.001, **p<0.01, *p<0.05, +p<0.1

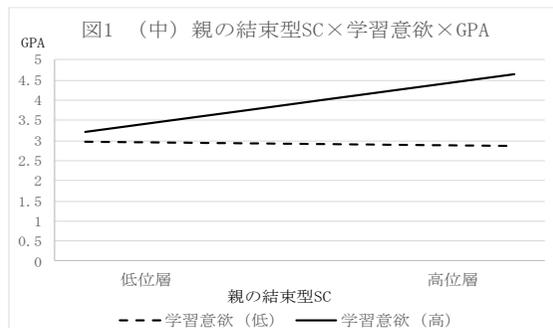


表 5 によると、日本の場合、回帰分析のステップ 1 ($R^2=.206$) において、大学生の結束型 SC、学習意欲が有意であった。ステップ 2 の R^2 の増加は有意で ($R^2=.208, \Delta=.002, p<0.001$)、投入された交互作用項は、大学生の結束型 SC×学習意欲が有意ではなかった。日本では学習意欲は GPA に有意な効果をもっている。学習意欲が高いほど GPA が高いが、学習意欲は大学生の結束型 SC と GPA の相関関係に関する要因ではないと明らかになった。

中国の場合では、ステップ 1 ($R^2=.069$) において、親の結束型 SC のみ有意であったが、学習意欲が有意ではなかった。ステップ 2 の R^2 の増加は有意で ($R^2=.106, \Delta=.037, p<0.05$)、投入された交互作用項は、親の結束型 SC×学習意欲が有意であった。学習意欲は親の結束型 SC と GPA の相関関係に関する要因となる。図 1 によると、学習意欲が強い人では、親の結束型 SC の GPA への効果はより高まることがわかった。

4.5 経済資本

表 6 日中結束型 SC×経済資本×GPA

		ステップ1				ステップ2					
		非標準化係数	標準化係数	t 値	有意確率	非標準化係数	標準化係数	t 値	有意確率		
		B	標準誤差			ベータ	B			標準誤差	ベータ
日本	(定数)	2.620	0.078	33.567	***	2.632	0.082	32.025	***		
	大学生の結束型SC	0.157	0.041	0.363	3.835	***	0.157	0.041	0.362	3.811	***
	経済力	-0.078	0.037	-0.201	-2.121	*	-0.073	0.039	-0.187	-1.893	+
	大学生の結束型SC×経済力					0.009	0.018	0.046	0.490	ns	
中国	(定数)	3.040	0.088	34.470	***	3.033	0.089	34.064	***		
	親の結束型SC	0.118	0.041	0.279	2.878	**	0.117	0.041	0.277	2.846	**
	経済力	0.136	0.071	0.185	1.908	+	0.126	0.073	0.172	1.734	+
	親の結束型SC×経済力					-0.024	0.033	-0.070	-0.715	ns	

*** $p<0.001$, ** $p<0.01$, * $p<0.05$, + $p<0.1$

表 6 によると、日本の場合では、回帰分析のステップ 1 ($R^2=.218$) において、大学生の結束型 SC、経済力が有意であった。ステップ 2 の R^2 の増加は有意で ($R^2=.220, \Delta=.002, p<0.001$)、投入された交互作用項は、大学生の結束型 SC×経済力が有意ではなかった。これよって日本では、大学生の結束型 SC は GPA に影響していることがわかる。経済力も GPA に影響しているが、負の影響を

もたらししている。本調査では日本人の大学生の経済力を交際費、服装費及び国内旅行から測定した。交際費、服装費及び国内旅行は経済力を表している一方、娯楽費の要素も強いことから、本研究では経済力はGPAに負の影響を与えたのではないかと考えられる。また、大学生の結束型SC、GPA、経済力は交互作用がないので、経済力は大学生の結束型SCとGPAに影響している原因ではない。

中国の場合、ステップ1 (R2=.100) において、親の結束型SC、経済力が有意であった。ステップ2のR2の増加は有意で (R2=.105, Δ=.005, p<0.1)、投入された交互作用項は、親の結束型SC×経済力が有意ではなかった。これによって、中国では親の結束型SCはGPAに影響していることがわかる。経済力はGPAに正の効果を持っている。しかし、経済力は親の結束型SCとGPAの間に影響を与えていない。

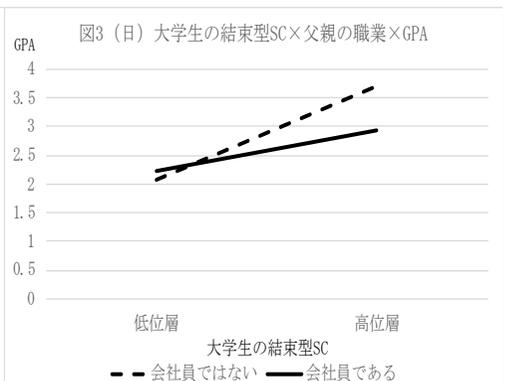
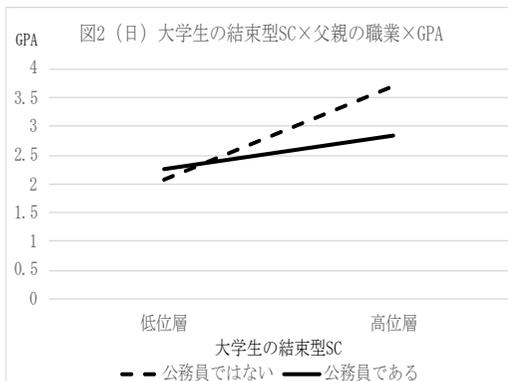
4.6 文化資本

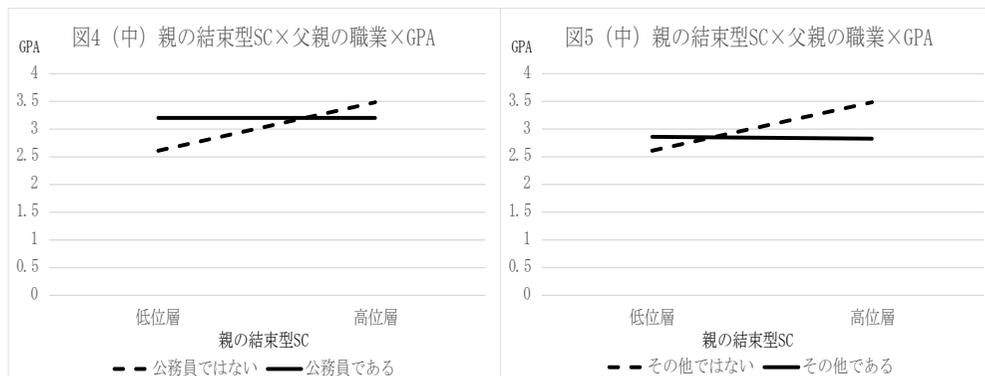
4.6.1 職業

表7 日中結束型SC×父親の職業×GPA

	ステップ1						ステップ2					
	非標準化係数		標準化係数		t 値	有意確率	非標準化係数		標準化係数		t 値	有意確率
	B	標準誤差	ベータ	B			標準誤差	ベータ				
日本	(定数)	2.809	0.283		9.920	***	2.877	0.284		10.121	***	
	大学生の結束型SC	0.188	0.040	0.433	4.686	***	0.405	0.120	0.932	3.362	***	
	公務員ダミー	-0.267	0.336	-0.123	-0.797	ns	-0.323	0.337	-0.149	-0.960	ns	
	会社員ダミー	-0.234	0.302	-0.133	-0.774	ns	-0.303	0.303	-0.172	-0.999	ns	
	その他ダミー	-0.001	0.355	0.000	-0.003	ns	-0.077	0.356	-0.031	-0.216	ns	
	大学生の結束型SC×公務員ダミー						-0.257	0.147	-0.280	-1.744	+	
	大学生の結束型SC×会社員ダミー						-0.234	0.131	-0.415	-1.789	+	
	大学生の結束型SC×その他ダミー						-0.278	0.190	-0.174	-1.466	ns	
中国	(定数)	3.040	0.151		20.195	***	3.025	0.149		20.326	***	
	親の結束型SC	0.103	0.042	0.245	2.459	*	0.202	0.066	0.478	3.059	**	
	公務員ダミー	0.144	0.248	0.064	0.579	ns	0.166	0.245	0.074	0.677	ns	
	会社員ダミー	0.030	0.261	0.012	0.114	ns	0.021	0.261	0.009	0.081	ns	
	その他ダミー	-0.141	0.237	-0.067	-0.594	ns	-0.188	0.238	-0.089	-0.791	ns	
	親の結束型SC×公務員ダミー						-0.202	0.108	-0.229	-1.864	+	
	親の結束型SC×会社員ダミー						-0.040	0.125	-0.037	-0.317	ns	
	親の結束型SC×その他ダミー						-0.207	0.111	-0.233	-1.868	+	

***p<0.001, **p<0.01, *p<0.05, +p<0.1





今回、父親と母親の両方で検討したが、日中とも母親の職業は関連が見られなかった。そこで、表7では父親の場合のみ表示する。日本の場合では、回帰分析のステップ1 ($R^2=.195$) において、大学生の結束型 SC のみ有意であったが、公務員ダミー、会社員ダミー、その他ダミーが有意ではなかった。ステップ2の R^2 の増加は有意で ($R^2=.227, \Delta=.032, p<0.001$)、投入された交互作用項は、大学生の結束型 SC×その他ダミーが有意ではなかったが、大学生の結束型 SC×公務員ダミー、大学生の結束型 SC×会社員ダミーが有意であった。それによって父親が公務員、会社員である大学生は、結束型 SC が GPA に与える効果が弱いことが明らかになった（図2，図3）。父親の職業は大学生の結束型 SC と GPA の相関に影響していることがわかった。

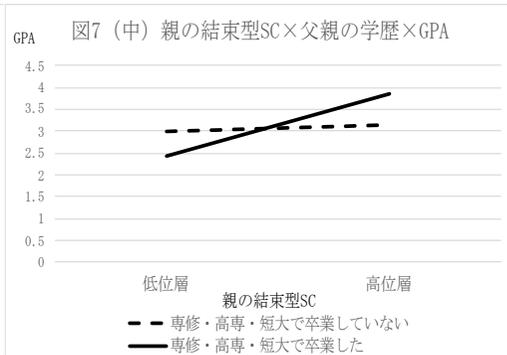
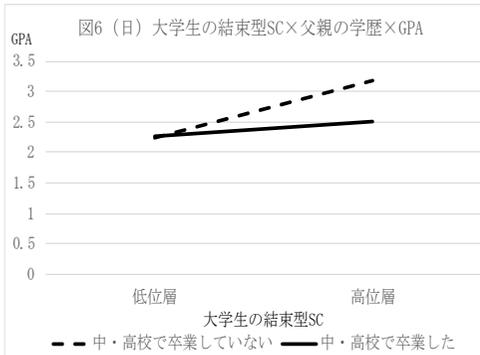
中国の場合では、回帰分析のステップ1 ($R^2=.077$) において、親の結束型 SC のみ有意であったが、公務員ダミー、会社員ダミー、その他ダミーが有意ではなかった。ステップ2の R^2 の増加は有意で ($R^2=.129, \Delta=.052, p<0.1$)、投入された交互作用項は、親の結束型 SC×公務員ダミー、親の結束型 SC×その他ダミーが有意であった。親の結束型 SC×会社員ダミーは有意ではなかった。図4、図5にみるように、中国では父親が公務員、その他である大学生は結束型 SC と GPA の関連がほとんど見られない。父親の職業は親の結束型 SC と GPA の相関原因とする。

4.6.2 親の学歴

表8 日中結束型SC×父親の学歴×GPA

	ステップ1					ステップ2					
	非標準化係数		標準化係数	t 値	有意確率	非標準化係数		標準化係数	t 値	有意確率	
	B	標準誤差	ベータ			B	標準誤差	ベータ			
日本	(定数)	2.712	0.103		26.232	***	2.708	0.102		26.592	***
	大学生の結束型SC	0.182	0.039	0.419	4.621	***	0.236	0.05	0.543	4.733	***
	中・高校ダミー	-0.314	0.173	-0.168	-1.807	+	-0.326	0.171	-0.175	-1.906	+
	専修・高専・短大ダミー	0.087	0.269	0.030	0.321	ns	0.089	0.265	0.031	0.336	ns
	大学生の結束型SC×中・高校ダミー						-0.179	0.085	-0.233	-2.111	*
	大学生の結束型SC×専修・高専・短大ダミー						0.044	0.150	0.027	0.291	ns
中国	(定数)	3.119	0.184		16.916	***	3.064	0.185		16.534	***
	親の結束型SC	0.107	0.042	0.253	2.544	**	0.032	0.079	0.075	0.401	ns
	中・高校ダミー	-0.201	0.221	-0.109	-0.910	ns	-0.142	0.219	-0.077	-0.649	ns
	専修・高専・短大ダミー	0.151	0.272	0.067	0.557	ns	0.073	0.270	0.033	0.273	ns
	親の結束型SC×中・高校ダミー						0.024	0.097	0.040	0.243	ns
	親の結束型SC×専修・高専・短大ダミー						0.297	0.119	0.327	2.508	**

** *p<0.001, * *p<0.01, *p<0.05, +p<0.1



学歴に関しても、今回、日中とも母親の学歴は GPA と関連を見せなかった。そこで、父親の学歴のみを表8に示した。日本の場合では、回帰分析のステップ1 ($R^2=.213$) において、大学生の結束型SC、中・高校ダミーが有意であったが、専修・高専・短大ダミーが有意ではなかった。ステップ2の R^2 の増加は有意で ($R^2=.253, \Delta=.040, p<0.001$)、投入された交互作用項は、大学生の結束型SC×中・高校ダミーのみ有意であった。日本では父親が中・高校で卒業した場合は、大学生のGPAに負の影響をもたらす。父親の学歴が低いと、大学生のGPAが低くなる。また、父親の学歴が大学生の結束型SCとGPAの関係に影響する要因であることがわかった。父親が高専や四年制大卒以上の大学生は、大学生の結束型SCが高位層にある時、GPAが高い(図6)。父親の学歴や職業は子供の達成に強い影響をもたらすことが示唆された。

中国の場合では、回帰分析のステップ1 ($R^2=.091$) において、親の結束型SCは有意であるが、中・高校ダミー、専修・高専・短大ダミーは有意ではなかった。ステップ2の R^2 の増加は有意で ($R^2=.163, \Delta=.072, p<0.01$)、投入された交互作用項は、親の結束型SC×専修・高専・短大ダミーが有意であったが、それ以外は有意ではなかった。父親が専修・高専・短大で卒業した大学生は、親の結束型SCがGPAにより強い効果をもたらしている(図7)。すなわち、中国では父親が専修・

高専・短大で卒業したことは、親の結束型 SC と GPA に影響する要因となっている。

5 結論

以上を踏まえ、仮説を検討してみよう。

仮説 1 は、結束型 SC と大学生の成績の相関関係について属性要因（地域、ジェンダー、キョウダイ数）と学習意欲が交互作用効果を示すこと。

結果によれば、地域は日中とも GPA とは有意性がない。結束型 SC と GPA の影響要因について、日本では大学生の結束型 SC と GPA の影響要因に関する相関性が見られなかった。中国でも地域は親の結束型 SC と GPA の影響要因ではないことがわかった。先行研究では都鄙格差の存在が指摘されており、農村部の生徒が不利であるといわれていた。今回は地域差が出なかった。その原因は本研究の調査対象は大学に進学した大学生であり、その段階で選抜されていることから地域格差が影響を与えないことが推測できる。

次に、ジェンダーに関する結果を見ると、日本人の大学生結束型 SC は GPA に影響しているが、ジェンダー差があまり見られなかった。中国人の大学生の親の結束型 SC は GPA に影響している。また、女子大学生は男子大学生より GPA が高い。中国でみられるジェンダー差は志水（2012）が日本の小学生を対象とした調査結果に合致する。交互作用について、ジェンダーは日本の大学生の結束型 SC と GPA の影響要因ではない。また、中国人大学生の親の結束型 SC と GPA の相関にも効果を与えない。

そして、キョウダイ数について、日本はキョウダイがいるかないかは GPA と関係ないが、中国ではキョウダイがいる大学生は一人っ子である大学生より GPA が高い。日本と中国とも、結束型 SC と GPA の相関関係に関する交互作用項は有意ではなかった。そして、日本人の大学生が有する親、親戚という社会関係からもらったサポートは GPA に有意であるが、キョウダイの多寡は GPA に影響を与えない。またキョウダイ数は日本人の大学生の結束型 SC と GPA の相関関係に関する要因ではない。中国の場合、親が有する配偶者、親戚といった家族型の人脈は大学生の GPA に影響し、大学生自身のキョウダイ数も GPA にプラスの効果を与えているが、交互作用効果ない。Coleman (1988) ではキョウダイ数が少ない方が SC の量が多く、教育でも有利であるとされたが、ここでは逆の結果となった。親の子供への注視の問題だけでなく、キョウダイ間のつながりも教育により影響を与えているのかもしれない。

学習意欲の結果によると、日本人の大学生は学習意欲が高いと GPA が高い。林ら（1984）は小学生の学習意欲が学力に影響することを指摘したが、大学生の場合でも同じく効果がみられることが実証された。しかし、学習意欲は大学生の結束型 SC と GPA の相関関係の影響要因ではない。中国では、学習意欲は GPA とは有意性がないが、交互作用分析では学習意欲は親の結束型 SC と GPA の影響要因となる。大学生の学習意欲が高いと親の結束型 SC が GPA により強い効果をもたらす。すなわち、親の配偶者、親戚という親の社会関係は大学生に与えたサポートが多いが、それは学習意

欲が高い場合にのみ GPA にプラスの効果を与える。

以上を見ると、日本では属性要因と学習意欲は大学生の結束型 SC と GPA の相関関係に関する要因ではない一方、中国では親の結束型 SC がより成績に効果を与えるには学習意欲が重要であることがわかった。

仮説 2 は親の経済資本と文化資本が、結束型 SC と GPA の相関関係に交互作用効果を示すこと。

まず、経済資本を見てみよう。日本のアンケート調査では、日本人大学生は家族と同居しているものも多く生活費を尋ねることが難しいと思われることから、経済資本を考察する時、交際費（通信費を含む）、服装費と国内旅行から指標化した。中国のアンケート調査では、中国人大学生は大部分が家族と離れて寮に住んでおり、1ヶ月の生活費をたずねた。結果を見ると、日本人の大学生は経済力が高いと GPA が低い。経済力と GPA の関係について、それは交際費（通信費を含む）、服装費と国内旅行は、経済力は高くても娯楽性も高く、そのことが GPA が低くなった要因かもしれない。中国の場合、経済力が高いと GPA が高い。すなわち、経済資本が恵まれている大学生はもらえる教育に対する資源も多いので GPA に有利な関係を持っている。劉保琛（2021）は経済資本とそれがもたらす資源は、子供の成績に影響するとした。本調査でも、経済資本は GPA と正の相関関係がある。交互作用については、日中とも経済力は結束型 SC と GPA の影響要因ではない。

次に、文化資本について、文化資本は親の職業と親の学歴からなるものである。日中とも、母親の職業は GPA とは有意性が見られなかった。まず、親の職業について、日本では父親が自営業である大学生は、父親が公務員、会社員である大学生より大学生の結束型 SC が高いと GPA が高い。父親の職業は大学生の結束型 SC と GPA の影響要因とする。父親が自営業である中国人大学生は、父親が公務員、その他である場合より、親の結束型 SC が高いと、大学生の GPA が高い。父親の職業は親の結束型 SC と GPA の相関関係の影響要因であることがわかった。李ら（2017）は、階層要因（特に父親の職業）が教育に影響を与えることを指摘した。本稿で父親と母親の職業を考察した時、母親の結果は有意性が見られなかったが、日本と中国において、父親の職業は大学生の成績に影響していることがわかった。そして父親の職業によって SC と GPA の関連の度合いは異なる。

次に、親の学歴を検討してみよう。日中とも母親の学歴は職業と同じく GPA に影響を与えない。日本人大学生の父親は中・高校で卒業した時、GPA と負の相関関係を持っている。父親の学歴は大学生の GPA に影響している。また、父親の学歴は大学生の結束型 SC と GPA の相関関係に関する影響要因となっている。父親の学歴が低いと、大学生の結束型 SC が高くても、GPA が低いことがわかった。林（2004）は、特に父親の学歴が教育に影響を与えるとしたが、今回もその結果に合致した。中国では、父親の学歴が専修・高専・短大である大学生は、親の結束型 SC が高いと GPA が高い。父親の学歴は親の結束型 SC と GPA の相関関係の影響要因である。中国では専修・高専・短大で卒業した父親を持っている大学生はそれ以外の大学生より、親と親が持っている配偶者、親戚からもらったサポートが多いと、大学生の GPA が高い。ちなみに、表 1 により中国の父親の学歴につ

いて、中・高校は 55.0%を占め、専修・高専・短大は 21.0%、四年制大学あるいはそれ以上は 24.0%を占めた。中国では父親の学歴は日本に比べ高くない。日本に比べて、父親世代から階層移動を果たしており、その意味で学歴社会ではないと考えられる。

文化資本について、志水（2005）と武（2018）は親の職業と学歴は学力に影響を与えるとしたが、今回の大学生調査でも合致した。

仮説 3 は仮説 1 と仮説 2 で示す交互作用効果が日中で異なり、中国の大学生では地域と親の階層的要因が効果を示す。

成績について、日本では、大学生の結束型 SC の他、学習意欲、経済力、父親の学歴が GPA に影響している。他方、中国においては、親の結束型 SC とジェンダー差、経済力が GPA に影響している。このように日中では GPA に影響を与える要因が異なっている。日本では大学生自身の要因が GPA に重要であるのに対し、中国では家庭要因が影響しているといえる。

結束型 SC と GPA の相関関係に関する交互作用分析から見ると、日本人大学生において、父親の職業と父親の学歴は、大学生の結束型 SC と GPA の相関関係に関する影響要因となることが明らかになった。中国においては、学習意欲、父親の職業と父親の学歴は親の結束型 SC と GPA の相関関係に関する影響要因である。垂見（2015）は家庭背景（親の階層）が SC に影響し、さらに学力に影響すると論じたが、本稿では父親の職業と学歴により、結束型 SC が GPA にもたらす効果が異なることを明らかにした。

ジェンダーは属性要因で、経済力は経済資本、父親の職業と父親の学歴も階層的な要因である。学習意欲は大学生自身の意欲である。以上を踏まえると、日本では大学生の結束型 SC と GPA の相関関係に関する影響要因について、階層要因が重要である。中国では、階層要因も影響しているが、大学生自身の学習意欲もより重要である。

現在、日本において世代間の職業閉鎖と階層固定化に注目が集まり、教育に影響を及ぼしていることが盛んに議論されている。本稿の結果からみると、結束型 SC は GPA に影響しているが、父親の職業と学歴との交互作用を示し、SC が GPA に作用する時、階層要因が影響していることを示唆している。大学生自身の結束型 SC が重要な点は Coleman 型であるが（呉 2022）、本稿でさらに詳しく分析した結果、階層要因がやはり影響を与え、SC で階層的な不利を相殺しきれていないことが明らかになった。

中国では、教育不安により親たちは経済資本などを教育に投入しており、教育の公平さが崩壊している状況が起きている。親の結束型 SC、すなわち親がもっているコネが効果を発揮する点は Bourdieu 型といえるが、そのコネがより大きな効果を発揮するには文化資本と学習意欲が重要であることがわかった。家庭要因が重要であることに教育の不公平さが再び示されているが、学生自身の学習意欲も同じく重要であり、意欲を高めることで教育を達成することが望まれる。

<注>

- 1) ここでの SC は次の項目を指標化したものである。配偶者との子育てや教育についてよく話すこと、子育てや教育について悩みを相談できる親戚がいること、PTA 活動に取り組むこと、学校での行事は子供と一緒に参加すること、地域活動を参加すること、身近に子供を預かってくれる人がいる、の 6 項目である。
- 2) 子供の SC は次の質問項目で測定している。家の人と学校での出来事について話をすること、家の人と普段（平日）夕食を一緒に食えること、学校で友達に会うのは楽しいこと、友達との約束を守っていること、住んでいる地域の行事に参加していること、今住んでいる地域の歴史や自然について関心がある。
- 3) 松田浩平ら（2004）は、学習意欲は大きく内発的動機づけと外発的動機づけを分けている。下山剛（2000：1-27）は、内発的動機づけは「好奇心に基づいたものであり、行動する自体が目標になっている」一方、外発的動機づけは賞罰による行動であり、目標を実現するための行動である。本稿で用いた学習意欲は内発的動機である。
- 4) 新潟大学の公式サイト <https://www.niigata-u.ac.jp/university/about/organization/charts/>参照
- 5) 新潟大学の公式サイト <https://www.niigata-u.ac.jp/university/about/data/student/>参照
- 6) 図表は全て筆者作成。

<参考文献>

- Bourdieu, Pierre, 1979, “*Les trois états du capital culturel*”, *Actes de la recherche en sciences sociales*, 30, 3-6. (=1986, 福井憲彦訳「文化資本の三つの姿」『actes』1, 18-28.)
- Bourdieu, P., et J.C. Passeron, 1970, “*La reproduction. Eléments pour une théorie du système d’enseignement*”, Minit. (=1991, 宮島喬訳『再生産—教育・社会・文化』藤原書店)
- 曹春春（2013）「家庭資本与大学生学习成绩关系的研究—以 A 大学为例—」安徽师范大学 修士論文。
- Coleman, J., 1988, “*Social Capital in the Creation of Human Capital*”, *American Journal of Sociology*, 94: S95-S120. (=2006, 金光淳（編訳）『人的資本の形成における SC』勁草書房)
- Coleman, J.S. et al., 1966, “*Equality of Educational Opportunity*”, U.S. Government Printing Office.
- 付信志・朱丽蒙・提越（2022）「大学生学业成绩的个体影响因素及其作用机制」*大学教育* 2022.04：251-254.
- 林幸範・今林俊一・下山剛（1984）「児童における学習意欲の研究：1. 学習意欲と知能・学力との関係」*日本教育心理学会総会発表論文集 第 26 回総会発表論文集*.
- 林雄亮（2004）「教育達成における出身地の影響と地域移動」*社会学研究科年報（立教大学）* 11：43-54.
- 石川由香里・杉原名穂子・喜多加実代・中西祐子（2011）『格差社会を生きる家族—教育意識と地域・ジェンダ—』有信堂.
- 石川由香里・杉原名穂子・喜多加実代・中西祐子（2018）『子育て世代のソーシャルキャピタル』有信堂.
- 李春玲（2005）『断裂与碎片 当代中国社会阶层分化实证分析 下册』社会科学文献出版社.
- 李春玲等（2017）『可持续发展 进展与挑战』社会科学文献出版社.
- 劉保琛（2021）「家庭資本对大学生学业成就的影响研究」聊城大学（修士論文）.

結束型社会関係資本が成績に与える効果とその背景（呉雨婷）

松田浩平・佐藤恵美（2004）「文京学院大学生における学習への動機づけと試験成績の原因帰属」文京学院大学
研究紀要 6(1): 149-166.

Putnam,R.D., 2000, *Bowling Alone:The Collapse and Revival of American Community*, Simon & Schuster. (=2006, 柴
内康文訳『孤独なボウリング—米国コミュニティの崩壊と再生』柏書房)

志水宏吉（2005）『学力を育てる』岩波新書.

志水宏吉・高田一宏（2012）『学力政策の比較社会学（国内編）全国学力テストは都道府県に何をもたらしたか』
明石書店.

下山剛（2000）『学習意欲の見方・導き方』教育出版.

杉原名穂子（2014）「母親の社会関係資本と教育意欲—地域間比較調査から—」人文科学研究（新潟大学） 135 :
21-46

垂見裕子（2015）「香港・日本の小学校における親の学校との関わり—家庭背景・社会関係資本・学力の関連—」
比較教育学研究 2015（51）: 129-150.

武彦平（2018）「不同阶层父亲教养方式对子女学业成绩影响的比较研究」雲南師範大学（修士論文）.

呉雨婷（2022）「個人の社会関係資本と親の社会関係資本が学力に与える影響—日中の大学生を対象として—」
現代社会文化研究（新潟大学） 74.

吳癒暉（2020）「社会分层视野下的中国教育公平—宏观趋势与微观机制—」南京師大学報（社会科学版） 2020.07 :
18-35.

Xie,Ailei,2011,Guanxi Exclusion in Rural China:Parental Involvement and Students'College Access. PhD Thesis,The
university of HongKong.

趙延東・洪岩壁（2012）「社会资本与教育获得—网络资源与社会闭合的视角—」社会学研究（社会科学版） 2012.09 :
47-68,242-243.

鄭磊（2013）「同胞性别结构、家庭内部资源分配与教育获得」社会学研究 2013.05 : 76-103,243-244.

主指導教員（杉原名穂子准教授）、副指導教員（松井克浩教授、渡邊登教授）